



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3150 号 2016.7.28 発行

相模原殺傷 障害者団体の声明文に反響 「不安、きつと通じる」



東京新聞 2016年7月28日

「身近な人に不安な気持ちを話しましょう。きつと聞いてくれます」一。相模原市の障害者施設殺傷事件を受け、障害者の権利擁護などに取り組む「全国手をつなぐ育成会連合会」（大津市）の久保厚子会長（64）＝写真＝は二十七日、障害のある人たちにこうメッセージを発した理由について「軽度の障害の人を中心に不安の声が聞こえてきたから」と話した。本紙の取材に答えた。（井上靖史）

事件では、障害者の存在を否定する植松聖（さとし）容疑者（26）の供述が報道されている。他の会員らと二十六日夜にまとめた声明では「私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています」「今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳（は）

せてほしいのです」などと訴えた。

久保さん自身にも重い知的障害のある長男重輔（じゅうすけ）さん（41）がいる。大津市内で重度の知的障害者施設を運営する久保さんは「事件後、仲間から『何もしなくていいのか』という声は何件も寄せられた。障害者の親として思いを発信せねばという思いに駆られた」と声明を発したいきさつを話す。

「身近な人に不安な気持ちを話しましょう。きつと聞いてくれます。生活のしかたを変える必要はありません」。二十七日朝には障害者に向けて全ての漢字に読み仮名を振ったメッセージも出した。植松容疑者の供述が報道で繰り返される中、『自分たちはこれからどうすればいいのか』と軽度の障害の人を中心に不安が聞こえてきたから』だと説いた。

かけがえのない命一。そう感じる瞬間は、息子や入所者との触れ合いの中にあるという。重輔さんは身の回りのこともできず、言葉も通じないほど障害は重い。だが「心と心のコ

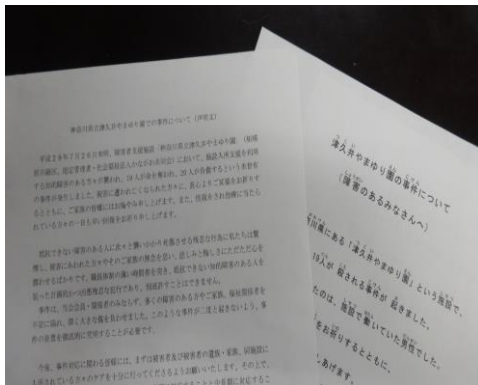


ミュニケーションは伝わる。冗談を言えば分かって喜んでくれる。表情の雰囲気や反応で分かる。大切な家族の一員なんです」と訴える。

多数の死傷者が出た障害者施設「津久井やまゆり園」の献花台を訪れた夫婦＝27日午後9時54分、相模原市緑区で（沢田将人撮影）

事件については「本当にやるせない。決して許されるものではない」と憤る半面、容疑者の不安定な精神状態も取り沙汰され、「もしそうなら、地域や周りが支えられなかったのかなとも思う。今後の活動で私たちは何をしなければならないのかという気持ちになっている」と複雑な思いを吐露した。

News Up 障害者殺傷事件 痛切な思いに共感広がる NHK ニュース 2016年7月27日



神奈川県相模原市の知的障害者施設で入所者などが次々に刺され19人が死亡した事件。事件の重大さだけでなく、容疑者の「障害者がいなくなればいいと思った」という趣旨の供述を巡っても波紋が広がっています。インターネットでは知的障害者の家族などで作る団体が出した緊急の声明に多くの共感が集まるとともに、障害者への無理解や社会の不寛容さを批判する声も相次いでいます。

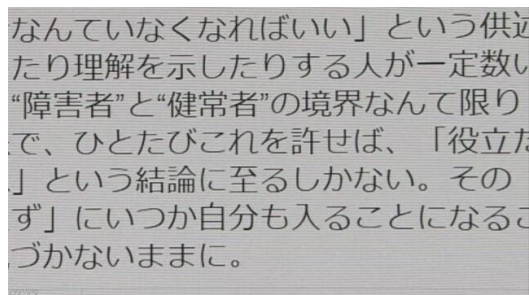
今回の事件で、逮捕された施設の元職員、植松聖容疑者（26）は、「障害者がいなくなればいいと思った」という趣旨の供述をしたほか、以前から「重度の障害者は生きていても仕方がない」と周囲に話していたことも分かりました。

緊急の声明 多くの共感

事件を受けて、知的障害がある人と家族で作る「全国手をつなぐ育成会連合会」は緊急の声明を出しました。

声明は「容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられていますが、どのような障害があっても一人ひとり命を大切に、懸命に生きています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、かけがえのない存在でした。お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会に向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます」と訴えています。

NHKのニュースサイトでは、この声明を伝えたニュースが、ネットでの拡散状況を示す「ソーシャルランキング」で一時トップになり、リツイート件数がおおよそ400件に上りました。関係者の痛切な思いが多くの人々の共感を呼んだことを示しています。



無理解や不寛容さに異議

ツイッターでも大きく注目された投稿がありました。

『障害者なんていなくなればいい』という供述に賛同したり理解したりする人が一定数いるけど、障害者と健常者の境界なんて限りなく曖昧。これを許せば『役立たずは死ぬ』という結論に至るしかない。その『役立たず』にいつか自分も入ることになることには気づかないままに

ままに」

この意見は広く拡散し、27日正午の時点で5000リツイートを超えました。

ツイッターには、このほか、「事件は我々がこれまで障害者をどう扱ってきたかの反映だ」といった投稿や「日本の社会が障害がある人たちに向けるまなざしそのものだ」といったもの、さらに、社会の不寛容さに問題があるのではといった指摘もありました。

障害者からの声も

さらに、障害があるという人たちも声を上げています。

「私は別に障害者として生まれたかったわけじゃないよ」

「私も障害者の1人。この怒り、どこにぶつけるべきでしょうか」

「障害者も頑張ってるし努力しているんです。人より劣ってるかもしれないけど人の何倍も努力しています」

1人1人が輝ける社会を

一方、こんなことばを引用している人もいました。

「この子らを世の光に」

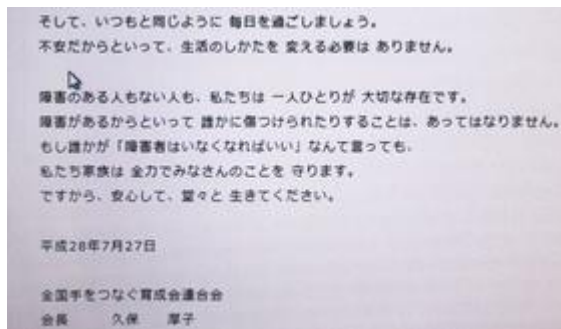
これは、滋賀県にある県立の児童福祉施設「近江学園」の創設者の1人で、昭和43年に亡くなった糸賀一雄さんが残したことばです。

近江学園によりますと、このことばには「障害がある子どもでも、それぞれに個性があり命の輝きがある。それは一見、異質なものに見えるかもしれないし、ほかの人の目には映りにくいものなのかもしれない。しかし、そのささやかな光であっても、1人1人が輝ける社会になってほしい」という思いが込められているということです。

今回の事件について、近江学園の主任専門員、森本創さんは「弱い立場の人が狙われた事件で憤りでいっぱい。最近、地域の人とも交流できるようにオープンな運営を心がけている施設が多く、そうした状況で事件が起きたのは残念だ。健常者も障害者も関係なく、すべての人が大切にされる社会を作らなければならない」と話していました。

抵抗できない障害者を狙った今回の事件。全容の解明はこれからですが、障害のある人もない人も共生できる社会をどう実現していくのか、改めて私たちに課題を突き付けています。

「障害者堂々生きて」 県内家族団体、命の重み訴え 神戸新聞 2016年7月28日



全国手をつなぐ育成会連合会が27日、「障害のあるみなさんへ」と題して、ホームページに公表したメッセージの一部。高まる不安をぬぐうため、兵庫県内の会員にも届けられる

19人が刺殺された神奈川県相模原市の障害者施設殺傷事件は、兵庫県内の障害者やその家族に大きな衝撃を与えている。障害者の尊厳を否定するような植松聖（さとし）容疑者（26）の言動に、障害者の家族は深く傷つきながら、命のかけがえのなさを訴える。

知的障害がある人の親ら約千家族でつくる「神戸市手をつなぐ育成会」の後藤久美子会長（60）の長男（34）は自閉症で、軽度の知的障害がある。長男は繰り返される事件のニュースをじっと見て「お母さん、僕は大丈夫ですか。仕事場に悪い人は来ませんか」と不安を口にするという。

搬送被害者、快方へ 相模原刺殺事件 読売新聞 2016年07月28日

神奈川県相模原市の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」で26日未明、19人が死亡、26人が重軽傷を負った事件で、多摩地域の医療機関に入院した負傷者は快方に向かっている。町田市民病院（町田市旭町）に入院した40歳代と20歳代の男性2人は27日に退院した。

4人が搬送された東京医大八王子医療センター（八王子市館町）では同日、池田幸穂病院長と新井隆男救命救急センター長が記者会見。重篤だった20～40歳代の男女3人の意識が戻ったことを明らかにし、「回復傾向にある」と述べた。しかし、3人は現在も集中治療室で輸血を受けているという。

26日に意識が戻った50歳代女性は、おかゆを食べるまで回復したという。

国立病院機構災害医療センター（立川市緑町）には、40歳代の男性2人が入院し、1人は首に深い刺し傷を負い出血性ショックになったが、「2人とも血圧が安定し、回復に向かっている」（管理課）という。

◆町田市長が懸念

相模原市に隣接する町田市の石坂丈一市長は27日の定例記者会見で、今回の事件が障害者への偏見を助長しないかと懸念を示した。

この事件で殺人未遂容疑などで逮捕・送検された同施設元職員植松聖容疑者（26）が「障害者なんていなくなればいいと思った」という趣旨の供述をしているといい、今年2月に障害者を差別する内容の手紙を衆院議長公邸に持参していたこともわかっている。

石阪市長はこの日の会見で、「障害者に対する偏見の助長をととても心配している」と述べた。

障害者見下す態度、2月に激化 相模原殺傷、園が会見 朝日新聞 2016年7月28日
事件について記者会見する「津久井やまゆり園」の入倉かおる園長（手前）ら＝27日午後5時13分、神奈川県庁、葛谷晋吾撮影



19人が犠牲となった神奈川県相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」が27日、事件



後初めて記者会見を開いた。逮捕された元職員の男は採用直後から障害者を軽んじ、今年に入ってから言動が急に攻撃的になったという。弱者を狙った理不尽な事件に、障害者や支援者は怒りに震えた。

入倉かおる園長らは、植松聖（さとし）容疑者（26）が園の職員として働き始めてから事件が起きるまでの経緯を神奈川県庁で説明した。

2012年9月。植松容疑者は、やまゆり園を運営する社会福祉法人「かながわ共同会」の採用試験を受けた。特別支援学校での実習経験などがあったことなどから採用され、13年4月から常勤職員として園で働き始めた。

だが、入倉園長によると、障害者を見下す態度は当初から表れていた。同年5、6月ごろ、植松容疑者が入所者の男性の手の甲に、黒いペンでいたずら書きをした。植松容疑者は「軽い気持ちで書いた」と話した。入倉園長は「相手の尊厳を大切にしていない態度だった。私たちがきちんと育ててあげられなかった」と唇をかんだ。

遅刻や早退が目立ち、健康保険証を3回なくした。目や手を腫らして出勤した時には「ケンカの仲裁」などと説明。昨年1月には入れ墨が見つかり、利用者から見えないようにするよう厳重注意されたが、短いTシャツ姿で園内を歩いていた。

そんな勤務態度は、今年2月に危険な言動へと急変する。業務中、同僚に「障害者は死んだ方がいい」と口走り、15日には、園の障害者に危害を加える内容の衆院議長あての手紙を衆院議長公邸で手渡した。

同僚の報告や県警津久井署の連絡を受け、園側が19日に緊急面談すると、植松容疑者は「障害者は周りの人を不幸にする。いない方がいい」と声のトーンを上げた。「それはナチスの考え方と同じだよ」と諭しても「考えは間違っていない」と言い張り、辞職を促されると「それなら辞める」と辞表を出した。



重複障害者を標的 相模原殺傷、居場所聞き出す 中国新聞 2016年7月28日

相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺され26人が負傷した事件で、殺人未遂容疑で逮捕された元施設職員植松聖（さとし）容疑者（26）が、結束バンドで縛った職員に、複数の障害がある重複障害者の居場所を尋ねていたことが27日、捜査関係者への取材で

分かった。植松容疑者は「重複障害者が生きていくのは不幸だ。不幸を減らすためにやった」とも供述。神奈川県警津久井署捜査本部は、障害の重い入所者を計画的に狙ったとみている。

「夜勤の職員を縛って鍵を出させてから入所者を刺した」と供述していることも判明した。施設関係者によると、少なくとも職員5人が結束バンドで縛られていた。捜査本部によると、西棟の職員は「近くの手すりに指や手を結びつけられていた」と説明しており、職員の身動きを封じて鍵を入手し、通報を遅らせようとしたとみている。県によると、同じ鍵で居室と施設内のオートロックの扉が開けられる。

捜査本部は同日、容疑を殺人に切り替えて植松容疑者を送検。自宅を家宅捜索し、2月に衆院議長宛てに持参した手紙の下書きのようなものが見つかった。また事件が起きた「津久井やまゆり園」を現場検証。司法解剖が終わった12人の死因の多くは首を切られたことによる失血死と発表した。

捜査関係者によると、難を逃れた比較的障害の軽い入所者が、結束バンドで縛られた施設職員に気付き、バンドをはさみで切断して助け出していた。

捜査本部や県によると、植松容疑者は26日午前2時ごろ、居住棟の東棟1階から個室の窓ガラスを割って侵入し、入所者を刃物で襲いながら渡り廊下を抜けて西棟1階へ移動。階段で2階へ上がり、管理棟2階にある玄関から外へ出たとみられる。26日に新たに血の付いた包丁2本が現場で見つかり、事件で使われた刃物は計5本になった。

相模原殺傷 8割失血の男性、心に傷 意識戻り「助けて」 東京新聞 2016年7月28日

「助けて」。血液の五分の四を失い重体となった二十代の男性は、意識を回復してすぐにごう第一声を発した。相模原の障害者施設殺傷事件。胸を刺された男性（51）の家族は「弱い人たちに乱暴するなんて、本当にひどい」と声を震わせた。

重体の男女四人が運び込まれた東京医科大八王子医療センターによると、二十代の男性は、知的障害者施設「津久井やまゆり園」の血だらけになった廊下で救急隊に発見された。

新井隆男救命救急センター長は「頸動脈（けいどうみゃく）を切られ、搬送時には血液の五分の四が失われていた」と振り返る。

首には五センチの傷が二カ所。頸動脈にカテーテルを入れて止血し、人工呼吸と輸血を続けた。事件のあった二十六日の夕方には意識を回復した。

人工呼吸器を外すと、看護師に「助けて」と求めた。精神発達遅滞の症状があるという男性。看護師が「大丈夫、ここは病院だよ」と答えると安心した表情で「犯人捕まった？」「おなかすいた」と話したという。

四人は二十七日までに全員が意識を回復。今は集中治療室に入っている。

三人が運ばれた神奈川県内の別の病院。胸を刺された男性の両親は二十六日朝、施設からの連絡で病院へ急いだが、手術が終わるまで面会できず、会えたのは深夜になってからだった。人工呼吸器を付けて寝ていたという。

男性は重い知的障害のため約二十年前に津久井やまゆり園に入所。最近は十日に一度、相模原市内の実家に帰っているという。

一命は取り留めたが、母親（79）は「ほっとはしていない。弱い人たちに乱暴するなんて、本当にひどい」と憤った。父親（82）は「施設と保護者の関係はすごく良かった。容疑者はどうして障害者に恨みを持ったのか」と戸惑った。

多数の死傷者が出た障害者施設「津久井やまゆり園」の献花台を訪れ、涙を流す山田洋子さん＝27日午後、相模原市緑区で

◆命をむげにされ 同じ障害者として悔しい



「津久井やまゆり園」の正門には二十七日、献花台が設けられ、障害がある人らが訪れて、被害者の冥福を祈った。「同じ（障害者の）立場として、命の大切さをむげにされるというのが、胸が張り裂けそうになった」。下半身と右手が不自由な立川市の山田洋子さん（45）は午後十時前、夫の久雄さん（43）に車いすを押されて、献花台を訪れた。

「障害を持った人は何の悪いこともしていないのに、指をさされる人生を送ってきた」と山田さん。だからこそ、毎日の平和な生活を大切に生きているという。

事件は平和なはずの生活の場を奪った。「施設の中でなぜ殺されなきゃいけないんですか。本当に悔しい」

侵入者への対応を訓練 鹿児島市の障害者施設

刃物を持った不審者役の警察官（手前左）を取り押さえる施設職員ら（27日、鹿児島市で）

刃物を持った不審者への対応訓練が27日、鹿児島市の障害者支援施設「あさひが丘」であり、職員や入所する知的障害者、敷地内にある障害児施設の児童ら約150人が参加した。

神奈川県相模原市で起きた事件と同様に、刃物を複数持った男が施設に侵入したとの想定。職員らは、不審者役の鹿児島県警鹿児島西署員をさすまたを使って取り押さえたほか、入所者を食堂に避難させたり、窓や出入り口を施錠したりした。

施設を運営する社会福祉法人「落穂会」の水流純大理事長は「夜間の施錠を改めて徹底し、万が一の時は訓練通りに対応したい」と話す一方で、「窓ガラスを割られた場合、侵入を防ぐのは難しいのではないか」と不安も口にした。

読売新聞 2016年07月28日



ナチス・ドイツはユダヤ人の大虐殺だけでなく、「T4計画」と呼ばれる非人道的な計画も実行した…

西日本新聞 2016年07月28日

ナチス・ドイツはユダヤ人の大虐殺だけでなく、「T4計画」と呼ばれる非人道的な計画も実行した。「民族の血を純粋に保つ」ため、精神障害者らを安楽死させようというものだ▼第2次大戦が始まると、ナチスは各地の精神療養施設などから「生きるに値しない」と判断された障害者を集め、ガス室で殺害した。7万人以上の命が奪われたとされる▼対象者は医師が選別した。国家に必要な「劣等分子」の効率的な処分と同時に「死によって障害者を苦しみから解放する」という理屈に、今更ながら戦慄（せんりつ）する▼ナチスの狂気が現代によみがえったように思える。相模原市の知的障害者施設で起きた「戦後最悪」の殺傷事件。元職員の男が凶刃を振るい、多くの人が死亡したり、重軽傷を負ったりした。重い障害がある入所者は、抵抗も逃げることも、悲鳴を上げることすらできなかったかもしれない。どれほど恐ろしく、無念であったろう▼男は「障害者なんていなくなっしまえ」と話しているという。犯行予告ともとれる衆院議長宛ての手紙には「私の目標は重複障害者の方が（中略）安楽死できる世界です」「日本国と世界のためと思い」とあった▼障害者を人として見ず、激しい憎悪を向ける男のゆがんだ心。いつ、どうしてナチスの亡霊に取りつかれたか。テロやヘイトスピーチが横行する社会に、亡霊を呼び寄せる黒い感情が満ちてはいまいか。

国原譜

奈良新聞 2016年7月28日

重い門扉を引き開けて学校に入るのが当たり前になった。大阪教育大学付属池田小学校で起きた児童殺傷事件は、学校の危機管理に大きな転機をもたらした。

それから15年。神奈川県内の知的障害者施設「津久井やまゆり園」に元職員の男が侵入し、

入所者を次々と刺殺した。

弱者を標的にしたという点で二つの事件は共通する。社会的に保護されるべき場所が凶行の舞台になる。これほど理不尽なことはない。

逮捕された男は、衆院議長に宛てた手紙に「障害者総勢 470 名を抹殺することができます」と書いていた。どんな生も一つの形であり、この世にあることが既に奇跡だ。だからこそ一人一人が尊重される。殺人は自身を否定することに等しい。

入所者には支える人がおり、容疑者もかつてそうだった。「障害者なんていなくなってしまえ」と供述するほどの闇はどこから湧き上がったのか。

詳しい動機まだ見えないが、他の障害者施設でも侵入者対策を強化する動きが出ている。難しいのは地域との一体感だろう。警備の強化だけでなく、住民の関心と見守りも、心強い防波堤になる。(増)

増加傾向の施設ばかりでなく、職場で虐待倍増 27年度は970人、障害者の尊厳どう守る

産経新聞 2016年7月27日

相模原市で障害者施設の入居者19人が刺殺された事件は、施設関係者にとどまらず、障害者の生命や尊厳、暮らしをどう守るべきかについて、一般社会にも改めて課題を突きつけた。増加傾向にある施設入居者に対する暴行だけでなく、職場で雇い主や上司から虐待を受けた障害者が平成27年度は前年度比で倍増したことが27日、厚生労働省の調査で判明した。



ブルーシートが張られた「津久井やまゆり園」＝27日午前、相模原市緑区（古厩正樹撮影）

厚労省による集計の公表は、今回で4回目（1回目は24年10月～25年3月の半年間）。27年度に職場で虐待を受けたのは前年度（483人）の100.8%増にあたる970人で、内訳は知的障害が最も多く553人。このほか身体障害が209人、精神障害が202人、発達障害が27人（一部は障害が重複）だった。

虐待の種別では賃金未払いなどの経済的虐待が855人と大半を占めた。このほか心理的虐待が75人、身体的虐待が73人などだった（一部は重複）。虐待数の増加は27年度から、健常者とともに働いていた勤務先の倒産で賃金が支払われない例を含めたことが主な理由。上司や同僚から「お前がいなくなれば楽になる」と暴言を吐かれた発達障害の20代男性や、火を消した直後のライターを押しつけられ、やけどをした知的障害の20代女性もいた。

武蔵野大の本多勇教授（社会福祉学）は「人と接するのが苦手だったり、時間帯で仕事のはかどり方が違ったりなど、障害者にもさまざまなタイプの人がいる。いかに個々の特性を知るかが前提だ」と話す。相模原の事件で逮捕された植松聖容疑者（26）の犯行は、こうした特性を把握せず、障害への無理解が背景となった可能性を指摘。「施設でも一般企業でも人員に余裕のない事業所ではストレスが身近な弱者に向かう傾向が共通する。組織として親和性や連帯感を作ることも必要」と話した。

入院判断に人権問題 措置入院制度 道内医療関係者が懸念

北海道新聞 2016年7月28日

道内の精神医療関係者からも、措置入院制度強化への懸念や、退院後の継続支援の充実を求める声が上がっている。

「事件により、措置入院の判断基準の引き下げ議論が起きるのではないかと。人権上、判断には慎重さが必要だ」。措置入院の判断に携わる札幌市南区の精神科病院の医師は懸念する。

道によると、道内で2014年度、措置入院した患者は延べ57人と、過去10年で最少だった。警察や家族などからの申請数延べ1289件の4.4%。道障がい者保健福祉課は「人の自由を制限するため、厳格な判断が求められる」と説明する。

国が精神医療について、長期入院ではなく、地域での支援を重視する方針に転換しており、全国的にも患者数は減少、入院は短縮傾向にある。札幌市によると、入院期間は一般的に長くて3カ月程度という。

一方で、退院後の継続的な観察の難しさを指摘する声もある。札幌市障がい福祉課は「退院後は福祉施設への入居や、就労支援などを勧めている」とするが、「本人や家族が希望しなければ、その後の関与は難しい」と打ち明ける。道都大の上原正希准教授（社会福祉学）は「病院、行政、警察が情報共有して退院後も見守る必要がある」と指摘する。

神戸市グループホーム介護報酬不正受給

ytv ニュース 2016年7月27日

神戸市北区のグループホーム田園が、市から不正に介護報酬を受けていたとして、指定取り消しの処分を受けた。実際には職員でない人物が夜間勤務をしているように見せかけ、合わせておよそ180万円の介護報酬を不正に受け取ったとされている。

介護報酬、17年度に改定へ 処遇改善狙い1年前倒し 水戸部六美

朝日新聞 2016年7月28日

安倍政権が掲げる「1億総活躍プラン」の目玉の一つである介護職員の処遇改善を実現させるため、厚生労働省は2017年度に介護報酬を改定する方針を固めた。3年に1度行われる定例の改定は18年度の予定だが、財源を確保するため処遇改善に限って改定時期を1年前倒しする。

相模原19人刺殺 措置入院の制度や運用について見直しを検討 厚労省

産経新聞 2016年7月27日



「津久井やまゆり園」を訪れた（左から）中島正信・神奈川県副知事、塩崎恭久厚労相、加山俊夫・相模原市長＝27日午後、相模原市緑区（古厩正樹撮影）

相模原の障害者施設殺傷事件を受け、厚生労働省は27日、措置入院の制度や運用の在り方について見直しを検討する方針を固めた。今後、専門家による有識者会議などで問題を整理し、改善点を議論するとみられる。

同日、犯行現場となった「津久井やまゆり園」を視察した塩崎恭久厚労相は措置入院に関し、「警察との連携を視野に、行政ややまゆり園との連携が適切だったか検証していく。入院の原因は大麻だったということで、大麻（中毒）へのフォローアップを十分に考えていかななくてはいけない」と述べた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行